

## ビバハウス便り NO.110 新しい年を若者と共に切り開く

2016年1月25日 ビバハウス責任者 安達 俊子

連日の本州大寒波報道を見ながら、どうしたわけか、今年のお正月は、日本海側に位置する余市は静寂を保ちゆったりとした雰囲気にもまれていている。まだ去年の半分ほどしか雪が降っていない。寒さは変わらないのに雪が降らない状況は何か不思議な落ち着かない感じが続いている。

去年の冬休み前日の12月22日、ビバ恒例のクリスマスパーティをスコットランドのお城のような豪華なエーヴランドホテルの広い宴会場を借りきって行った。メンバー3人で実行委員会を組み、企画・立案・実行を最初から最後まで取り仕切ってもらった。参加者は正規メンバー7人と現在ステップアップハウスで生活中的ビバハウス卒業生3人、スタッフ4名の計14名で、おいしい食事をしながら、色々な催しもあり、メンバー・スタッフ全員が楽しく盛り上がった。特に、2チームに分かれ、新聞紙半枚の上に5人ずつ乗り、じゃんけんをし、負けたら新聞紙をまた半分に折っていく。それを繰り返し、人が乗れなくなれば負けというゲームでは皆真剣になって熱く闘った。

今年の冬休みは12月23日～1月10日までの19日間で、メンバーそれぞれ実家に帰省してもらい、家族とのつながりを深めてもらった。事情により実家に戻れない人は北星余市高指定の下宿にお世話になって各々冬休みを過ごした。

メンバーがいないビバハウスは閑散としていて、火の気がない事もあって、いっそう寂しいように感じられた。大変だった半年を思い、少しほっとしながらもそんな冬休みを過ごしていた。どこの部屋にいても誰もいないので、一番びっくりしたのは猫のラミちゃんだったかも知れない。

冬休みが明け、次々とメンバーがビバに戻り、現在8人中7人がビバに戻り、生活を始めている。皆実家や、下宿で過ごし、少なからずビバで溜まった疲れを癒し、また自分との闘いを始めようとしている所だ。

冬休みが明けて約2週間が経ち、先日新年会を行った。こちらは実行委員会を作らず、グループワークで全員参加してもらい新年会の準備をした。今年は、ビバや余市にちなんだ「かるた」製作を主としてメンバーに歌と絵をそれぞれ25枚ずつ描いてもらった。皆一生懸命で約一週間かけ完成した。

メンバーが作った歌をひとつ紹介したい。「自分を明日を変えるビバ」この歌にビバの全てが集約されている。メンバーの自分を変えたいという気持ちに全力で応援していきたいと新年を迎え、改めて決意させられた。